

土壌医検定合格体験記

JA 鹿児島県経済連肥料農薬課 折口弘晃

1. 土壌医検定を知ったきっかけ

私が土壌医検定の存在を知ったのは、社会人1年目の2015年でした。当時、職場の先輩方の多くが土壌医検定2級に合格しており、私も半ば強制的に受験することになりました。私は大学では水産学を専攻していたため、農業に関する知識はほとんどありませんでしたが、農業をゼロから学ぶ良い機会となりました。

「絶対に落ちてはいけない」という職場の雰囲気も、良い意味でのプレッシャーとなり、なんとか1年目で土壌医2級に合格することができました。

2. 土壌医検定1級受験のきっかけ

2級に合格してから9年が経った頃、ふと気づくと、当時お世話になった先輩方は異動しており、職場には多くの後輩ができていました。私は指導する立場となり、土壌医検定を1つのツールとして、後輩たちの育成に取り組んでいました。

朝6時から自主的に出勤して勉強する子、土日に集中して取り組む子など、それぞれが努力している姿を目の当たりにし、「自分は本当に頑張っているのか？」と自問自答するようになりました。そして、自分自身も再び挑戦すべきだと感じ、1級へのチャレンジを決意しました。

3. 受験対策

1級には記述試験と業績レポートの提出が求められます。業績レポートについては、日々の業務の中で行っている土づくりの指導内容をもとに作成しました。添削は、職場にいる県OBの土壌診断の専門家をお願いし、多くの修正をいただいたことを今でも覚えています。その結果、レポートは1回目の受験でB判定を得ることができました。

しかし、筆記試験では合格点に届かず、不合格となってしまいました。今思えば、過去問しか解いておらず、参考書をきちんと読んでいなかったことが敗因だったと反省しています。実際、過去問ではカバーしきれない知識を問われる問題が多く出題された印象がありました。

翌年は、「過去問と参考書の両方にしっかり取り組む」という目標を立てました。過去問は2012年度から2023年度までの問題を3回以上解き直し、参考書（全280ページ）については、時間が限られている中で効率よく学べるよう、大切な箇所に線を引き、知らない用語や知識はパソコンでまとめて独自の問題集を作成しました。

勉強を本格的に始めたのは年末頃からで、平日は 3 時間、土日は 10 時間と決めて計画的に学習を進めました。

4. 今後の目標

土壌医検定で得た知識を、JA や生産者向けの講習会、生産者部会での説明などに活かしていきたいと考えています。

また、最近職場の Instagram アカウントを開設しました。現在は主に、肥料や農薬の紹介、試験情報などを発信していますが、今後は「土壌医が伝える土づくりコーナー」を設け、土壌に関する知識をより広く伝えていければと考えています。

そして何より、土壌医検定 2 級を取得している後輩たちにとって、私自身がひとつの目標となり、彼らがさらに専門性の高い分野で活躍できるようサポートしていくことが、今後の大きな目標です。



Instagram QR コード